地域活性化へ学生の発想

「禅寺丸柿まつり」の企画・運営

大盛況のクイズ大会

社会人との交流がよい経験に

10月21日、小田急線柿生駅前で開催された「禅寺丸柿まつり」（柿生中央商店会主催）では、ダンスイベントや柿の種飛ばし大会、皮むき大会などが開かれた。吉岡渉さん（経営2）ら6人が企画・運営に参加した。

学生が中心となって企画したクイズ大会では、有木卓也さん（文3）と鈴木美音さん（経営3）が司会進行を担当して商店会加盟店の店名や商品にちなんだ○×クイズを出題。正解数が多い人は豪華景品がもらえるとあって、答えが発表されるたびに参加者から大きな歓声が上がり、大会は大いに盛り上がった。

吉岡さんは「準備を始めたのは半年ほど前から。自分たちと商店会の方、双方のやりたいことを擦り合わせるのが大変だった。社会人の方と接してみて、アイデアを他者に理解してもらうには、理論立った説明と事前準備がいかに大切か分かった」と話した。

▶ クイズ大会は大いに盛り上がった

▶ 吉岡さん（後列左端）ら参加したメンバー

「しんゆり散歩ラリー」の企画・運営

工夫凝らし…キャンドルツリーも

情報共有の大切さ学ぶ

地域の活性化や地域ブランドの確立を目指している「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」の活動に参加しているのは、川上万里弥さん（経営2）を代表とする学生グループ「SART」のメンバー7人。「しんゆりオリーブまつり2012」のイベントとして、10月27日、「しんゆり散歩ラリー」を展開した。

小田急線新百合ヶ丘駅周辺に設定したスタンプラリーのコースを巡りながら、地域にまつわるクイズや紙飛行機大会、オリーブアートの制作などに挑戦するもので、メンバーは企画から運営までのすべてを担った。

川上さんは「人数が集まらず準備不足の面もありましたが、たくさんの方に参加してもらえてよかったです。仲間との情報共有が大切だと感じました」と話した。

現在は、同駅周辺で実施されている「kira ra@アートしんゆり2012」（13年2月14日まで）に協力。「キャンドルツリー」を作成し、「しんゆり」の夜を彩る。

▶ 親子で参加する姿が目立った

▶ 川上さん（前列中央）ら「SART」のメンバー

「エルカジまつり」の企画・運営

模擬店出店、ゲームも

〝人とのつながり〟再認識

10月27日、東急田園都市線・梶が谷駅周辺で行われた「エルカジまつり」（梶が谷駅前通り振興会主催）に中村菜樹さん（商3）ら11人が参加。模擬店やゲーム企画、ライブステージの司会をはじめ、チラシデザインなど多方面で活躍し、学生ならではの発想と行動力で祭りを盛り上げた。

模擬店ではオリジナルスイーツ「エルカジロール」を販売。梶が谷で獲れたさつま芋を使ったスイートポテトを春巻の皮で包んで揚げたサクサク食感が受け、200食を完売した。レシピを考えた蓮沼嵩宏さん（経済3）は「商品開発から販売までの流れを学べたのは大きな収穫」と笑顔。

司会を担当した大川原正太さん（法3）は「自分の司会でイベントが盛り上がればうれしい。地域の活性化は社会の活性化につながると信じて参加しました」と熱い。

中村さんは「チームで動くことの難しさを学びました。地域の方々と協力してイベントを作り上げ、改めて人と人とのつながりの大切さを感じました」と振り返った。

▶ 司会の大川原さん（右）

▶ 大人気のエルカジロール

「たま音楽祭」実行委員会に参加

体験ワークショップ開く

人気企画に子供たちも笑顔

〝音楽でつながる〟をテーマとした地域交流イベント「たま音楽祭」が12月1日、多摩区総合庁舎で開催され、5人の学生が実行委員会のメンバーとして企画と運営に携わった。学生たちは体験ワークショップ（ワイングラスハーブ演奏体験、ミニクリスマスツリーづくり、キャンドルづくり）を開催して音楽祭を盛り上げた。

体験ワークショップ用に用意された松ぼっくりのミニクリスマスツリーやカラフルなキャンドルは学生が一つひとつ手づくりしたもの。親子連れが列をつくるほどの人気で、子どもたちは学生に教えられながらツリーやキャンドルに思い思いのデコレーションを施した。また、ワイングラスハーブ演奏では「きらきら星」の演奏を披露した。

リーダーの坂井亮介さん（経済3）は、「親子でクリスマスを楽しめるような企画を考えた。社会人の方と接することで、コミュニケーションの大切さが学べた」と笑顔。田中優衣さん（経営2）は「子供たちの笑顔がたくさん見ることができてうれしかった」と振り返った。

▶ ミニクリスマスツリーづくりは大盛況

▶ ワイングラスハーブ演奏

○○留学生が母国紹介○○

理解プログラム

イタリア　ブーニョ・マリアさん

留学生が自国を紹介する「ヨーロッパ理解プログラム」（国際交流センター主催）が11月20日、生田キャンパスで開かれ、学生21人が参加した。講師は、イタリアのベネチア大学出身で現在、大学院文学研究科博士後期課程研究生のブーニョ・マリアさん。

ブーニョさんはイタリアの文化、歴史、地域性の違いなどのほか大学生がどのような学生生活を過ごしているかを、見事な日本語で紹介した。

発表の後、イタリアのシエナに在外研究のため滞在したことがある大林守国際交流センター長から提供のイタリア製クッキーを囲んで和やかに歓談した。

また11月には、以下の留学生が「母国紹介」の発表を行い、日本人学生と交流した。▽ラオスのメッカシン・ナッタリーさん（特別聴講生）▽インドのモハッマド・イムランさん（大学院文学研究科博士後期課程）▽秋のBCLプログラム受講のオレゴン大生6人。

▲ 見事な日本語を披露したブーニョさん

やさしい英語による経済学講座

経済問題を多方面から

S・リム教授が講師に

第151回国際交流特別講演会「やさしい英語による経済学講座」が10月27日から12月8日まで全5回、生田キャンパスで開催された。

講師は経済学部客員教授のスティーブン・リム氏（ニュージーランドワイカト大学教授）。同教授の公開講座は例年好評で、今回は毎回40人ほどが聴講。▽Can success make you lonely?（成功はあなたを孤独にしますか?）▽The economics of 'immoral behavior（不道徳な行動の経済学）などをテーマに、経済問題を多方面から語った。

▶ 講演するリム教授